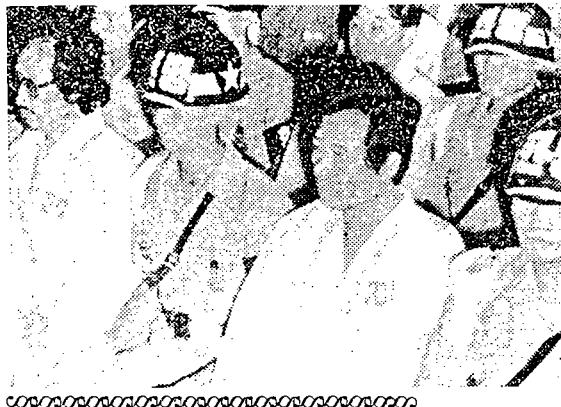


三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！

軍事大国化・侵略への道ひた走る反動鈴木内閣

14日ソウルの軍法会議裁判で憲兵にはざまれ被告席にすわる金大中氏（前列右から2人目）1人おいて左が文益煥牧師（UPI）



全斗煥と日本政府による金大中氏らへの死刑攻撃を断じて許すな！

八月十四日、あの血の弾圧者全斗煥は遂に金大中氏らに対する死刑・抹殺の意図もあらわに軍事裁判を強行開始した。ありとあらゆるデッчи上げ『罪名』をこじつけ、金大中氏をはじめとする政治家・教授・宗教人・詩人など二四名の人士の首を、数千の光州人民を無差別に虐殺したその血ぬられた手で締め殺そうというのだ。しかも全斗煥は軍事裁判開始に先立ち、政治犯の擁護に熱心な弁護士二〇名をすでに戒厳司令部に連行したままで、金大中氏らは自らの立場を理解し擁護してくれる充分な弁護人選任の権利さえ剥奪されていると伝えられている。

全ての組合員の皆さん！どうしてこんな暴行

が許せるだろうか！

その上、日本政府は、重大問題となつたデッチ上げ起訴状文に対しても、「政治決着には抵触せず、問題なし」として全斗煥全面支持を即日表明するという反動的本性をむき出しにしたのである。

事態は急を告げている。今こそ全人民的な全斗煥・反動鈴木内閣弾劾、金大中氏ら救出の大運動をまき起こしていかなければならない。

急転回とげる反動攻勢

しかも、その上、翌八月十五日「終戦」（敗戦）記念日に各界の批判を押し切り、鈴木首相を先頭に閣議申し合わせをもつて全閣僚が靖国神社に参拝し、「国のために散つた英靈をたたえてどこが悪い」と開き直り、逆に靖国神社法案の立法化をぶち上げたのである。



始まった陸上自衛隊の団上演習＝15日午前9時40分 東京・大本の防衛庁

時を同じくして「わざわざ八月十五日といふ日を選んで」、陸上自衛隊が北海道にソ連軍が侵攻してきた」という想定の「あかつき大演習」と称する二週間にもわたる団上演習（有事のための指揮所演習）を開始し、わざわざ報道陣を招いてその作戦ぶりを公開するという異例の措置をとった。

続く八月十六日、新聞は「崔圭夏大統領辞任、全斗煥近く大統領就任か」の見出しと共に、日米両政府ともこの動向を支持する旨の見解を報道した。

この急転回する今日の事態は一体何か？ 今や、時代は容易ならざる事態にまで直面していると言わざるを得ない。

そもそも、ダブル選挙という強引なやり方で、数の圧勝をもぎり取った田中（大平）鈴木

反動鈴木内閣こそ、
軍事大国化促進内閣！

第一に、懸案になつていていた事全てを一挙にはき出しが如く、次々と超反動的な軍事大国化攻撃をかけてきている事である。

それは第一に軍事大国化の大攻撃であり、第二に暗黒反動政治、そして第四にその最大の攻撃軸として三里塚二期攻撃への凶暴な突進である。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

日刊
動労千葉

80.8.19
No. 511

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二三二五八九・(公衆)零三二七二〇七